

平成 22 年 5 月 14 日現在

研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2007～2010
課題番号：19330084
研究課題名（和文） アジア共同体構想時代における自動車産業のサプライヤーシステムに関する比較研究
研究課題名（英文） THE STUDY OF AUTOMOBILE SUPPLIER IN ASIA
研究代表者
山崎 修嗣(YAMAZAKI SYUJI)
広島大学・大学院総合科学研究科・准教授
研究者番号：80239938

研究代表者の専門分野：産業論 企業論
科研費の分科・細目：経営学・経営学
キーワード：自動車産業 自動車部品メーカー

1. 研究計画の概要

自動車産業の海外生産におけるサプライヤーシステムの現状と生じている問題点を中国市場における日系自動車メーカー・日系自動車部品メーカーを対象として明らかにする。また上記にともなう国内自動車産業・自動車部品メーカーの再編成も明らかにする。特に地域経済への影響を重視して分析を行う。

2. 研究の進捗状況

(1)中国における日系自動車・自動車部品メーカーの展開、問題点を調査した。日系自動車メーカーでは現地の状況に対応した工夫が見られた。例えば広州トヨタでは、多能工の仕事を分解して、日本では一人のこなす仕事を二人に分けることがわかった。部品調達についても国内での供給者が中国に進出している場合は、それを優先的に利用していた。進出していない場合は、他の日系メーカーを利用していた。現地、民族部品メーカーの利用はそれほど進んでおらず、広域ミル克蘭を利用して日系部品メーカーが納品していた。このことは、部品メーカーにとっては、日本では発生しにくいビジネスチャンスが生まれていることがわかった。

(2)国内における自動車・自動車部品メーカーの再編成の分析では以下のことがわかった。北海道・東北・九州北部に展開している自動車メーカーは、それぞれ進出してきた以前から取引関係のある部品メーカーから納品を受けており、現地の企業からの調達は、限定されている。たとえば、鉄工所などで自動車産業に進出を考えている中小企業では、品質基準が厳しく、また納入ロットが大きく、

過大な設備投資を求められることから見送るケースが続出している。したがって地元自治体が期待しているような波及効果が生まれていない状況にある。またそれに関連して自動車メーカーのミル克蘭が広域になってきていることも指摘できる。

自動車メーカーとサプライヤーの関係は、以前の資本関係をもとにして形成される状況から、日常的な取引をもとにして最適調達を目指すものになっている。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

(理由)

中国の日系自動車メーカー・部品メーカーに關係する中国の民族メーカーに対する調査で、院生の協力が得られたため計画以上に進展した。

4. 今後の研究の推進方策

中国における民族系の部品メーカーの動向について分析するとともに、タイ・インドにおけるサプライヤーシステムについても調査・研究を行う。それはアジアにおいて自由貿易協定などで経済的連携が深まりつつあるためである。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計2件)

①山崎修嗣責任編集、丸善、『中国の自動車産業』、2010、160頁

②山崎修嗣編、法律文化社、『中国・日本の自動車産業サプライヤー・システム』、2010、191頁